

庄内大豆通信 第3号

令和3年6月25日

庄内総合支庁農業技術普及課 TEL: 0235-64-2103 FAX: 0235-64-2104

遅れずに中耕・培土作業を行い増収を図る！

本年は、5月下旬に降雨日が多かったため、播種作業は平年より遅れた圃場が多い。播種以降の適度な気温・降水量により出芽は良好である。一方、播種が遅れたことで、今後、適期に効果的に中耕培土作業を行うことが、生育を確保するために重要である。

1. 中耕培土のポイント

中耕培土には、①雑草の抑制、②土壌の排水性・通気性確保、③大豆の根域拡大、④大豆の倒伏防止といった効果がある。以下のように遅れずに2回の中耕培土を行う。

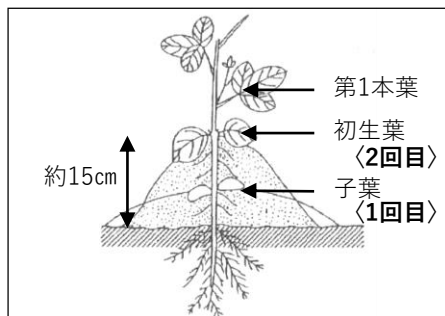


図1 中耕培土の方法

1回目 本葉3葉期頃（6月下～7月上旬）

- 土壌処理剤の効果持続期間
(処理後2～3週間)以降に実施する。
- 子葉節まで軽く培土する。

2回目 本葉6～7葉期頃（7月中下旬）

- 初生葉節まで培土。株元を凹ませない。
→培土の高さは15cmが目安。
- 遅くとも開花1週間前までに作業を終える。
→作業が遅れると葉や根を痛めるため逆効果。
- 追肥する場合、緩効性肥料を用いる。
→LPコート70で窒素成分6～8kg/10a施用。

表 培土期追肥の効果

区	追肥N量 (kg/10a)	百粒重 (g)	子実重 (kg/10a)
(培土期追肥)			
なし	0.0	23.9	321 (100)
LP70	7.5	25.0	388 (121)
硫安	7.5	24.6	357 (111)

品種:スズメカ 基肥N量:2.5kg/10a。

子実中の()の数字は「なし区」対比。

(S61 山形農試)

ディスク式中耕培土機の紹介

【ロータリ式との比較】

- 培土が高くなりやすい。
- やや湿潤な土壌でも作業が可能。
→土を練りにくい。
- 雑草抑制効果が高い。
→ツユクサの発生量が減少する。
- 作業速度が速い。
→1時間当りの作業面積が約2倍。



写真1 ディスク式中耕除草機

(H25 県成果情報より)

不安定な気象条件での大豆作に有効！

2. 雑草防除

中耕培土による雑草生育の抑制を基本とする。茎葉処理剤は、草種を見て選定し、雑草が大きくならないうちに使用する。

使用方法が畝間処理・雑草茎葉散布のみの剤は、大豆の茎葉にかかると薬害を生じるため、専用ノズル等を使用する。

主な除草剤の使用法

適用雑草	使用方法	除草剤名	使用時期	使用量 (ml/10a)	散布液量 (ℓ/10a)	本剤の使用 回数
一年生 イネ科雑草 (スズメカサネを 除く)	雑草茎葉散布 または 全面散布	ワンサイドP乳剤	イネ科雑草3～5葉期 但し、収穫60日前まで	75～100	通常散布50～100 少量散布25～50	1
		ナブ乳剤	イネ科雑草3～5葉期 但し、収穫30日前まで	150～200	100～150	1
			イネ科雑草6～8葉期 但し、収穫30日前まで	200	100	
			イネ科雑草9～10葉期 但し、収穫30日前まで	250～300	100～150	
広葉	畦間処理 雑草茎葉散布	ポルトフロアブル	イネ科雑草3～10葉期 但し、収穫30日前まで	200～300	通常散布50～100 少量散布25～50	1
		大豆 バサグラン液剤	だいたいの2葉期～開花期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで	100～150	100	1
			だいたいの生育期 (雑草の生育初期～6葉期) 但し、収穫45日前まで	300～500		
一年生雑草		バスタ液剤	収穫28日前まで 畦間処理:雑草生育期 株間処理:だいたいの本葉5葉 期以降雑草生育期	300～500	100～150	3回 以内

※必ず農薬のラベル等を確認し、使用方法を順守する。

難防除雑草の対策

近年、県内でアレチウリや帰化アサガオ類等の防除が難しい雑草の発生が散見される。発生を確認したら、雑草の開花・結実前に速やかに防除して地域での拡大を防ぐ。

▼帰化アサガオ類



写真 マルバアサガオ(左:幼植物、右:本葉と花)
(農研機構「診断に基づく大豆栽培改善技術導入
支援マニュアル」より抜粋)

- 本葉はハート形で濃い緑色で葉脈が目立つ。花色は青や赤紫等様々。
- つる性で大豆に絡みつきながら生育。多発すると防除が難しく、機械収穫が困難になる。
- ほ場周辺から侵入する機会が多いため、畦畔等ほ場周辺で発見したら、刈取りや、有効な茎葉処理除草剤により早急に防除する。

あぐりん(アグリネットやまがた)で最新情報を入手!

PCやスマートフォンから、作物別・地域別のタイムリーな
技術情報・病害虫・防除・農薬情報をご覧いただけます!

